

地域と協同の 161号 研究センターNEWS

2018年4月25日発行

日本協同組合連携機構（JCA）が発足しました！



■ JCAが発足

2018年4月1日、「一般社団法人 日本協同組合連携機構」（英語名Japan Co-operative Alliance、略称JCA）が発足しました。

JCAは、JA・生協・漁協・森林組合・ワーカーズコープ・共済・ろうきんなど協同組合の全国組織17団体が集う「日本協同組合連絡協議会（JJC、1956年設立）」の取り組みを引き継ぎ、一般社団法人JCC総研を改組して誕生しました。

■ 地域社会の課題と協同組合への期待

経済がグローバル化するなか、貧富や機会の格差とその拡大、社会の分断や孤立が日本を含め世界的に問題となっています。また、日本の地域社会は、人口減少・少子高齢化に伴う問題、地方の活力低下、若年層に特に厳しい雇用環境といった様々な課題に直面しており、行政だけではこれらを解決することは困難です。

こうした状況のなか、国連は2012年を「国際協同組合同年」とし、スローガン「協同組合はよりよい社会を築きます」を掲げました。また、2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」は、協同組合をその達成にあたり役割を果たすべき民間セクターの一つとして明記しています。さらに、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）は、ドイツ政府からの提案に基づき「協同組合の思想と実践」を無形文化遺産に登録しました。このように、人々が参加と協同で社会的な課題を解決する仕組みとして、国際社会の協同組合に対する評価は高まっています。

■ JCAの目的と機能

日本では、約6,500万人の人たちが協同組合の組合員となっており、協同組合の業種は農林水産業・購買・金融・共済・就労創出・福祉・医療・旅行・住宅など多岐にわたります。こうした多様な協同組合の力を合わせ、今後、上記のような地域社会の課題と協同組合への期待に一層応えていく必要があります。【2頁へ続く】

一般社団法人 日本協同組合連携機構（JCA）
協同組合連携部長 主席研究員 前田 健喜（まえだ・けんき）

JCAのウェブサイトアドレスwww.japan.coop

CONTENTS

CONTENTS		地域と協同の研究センター 4月の活動
▶日本協同組合連携機構（JCA）が発足しました！	1	4月5日（木）研究フォーラム「食と農」世話人会 4月6日（金）三重地域懇談会世話人会
▶三重のプチフォーラム「三重県内の子ども食堂の活動報告」	3	4月9日（月）「市民講座」企画委員会準備会、NEWS編集委員会 4月12日（木）名市大寄付講義① 4月13日（金）愛知の協同組合間協同相談会
▶第12回三河地域懇談会 豊橋生協会館へ寄らまいかん 開催	4	4月16日（月）常任理事会①、岐阜地域懇談会世話人会 4月18日（水）研究フォーラム環境世話人会、くらしを語りあう会 4月19日（木）名市大寄付講義②
●情報クリップ	5	4月20日（金）三河地域懇談会世話人会 4月21日（土）理事会
■企画案内等：傍聴席を満席に！！原発事故損害賠償請求訴訟愛知岐阜	8	4月24日（火）NEWS編集委員会 4月26日（木）名市大寄付講義③ 4月27日（金）尾張地域懇談会世話人会

「日本協同組合連携機構（JCA）が発足しました！」1頁より

■ JCAの目的と機能

JCAは、協同組合の“持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくり”に貢献することを目的とし、①地域・都道府県・全国での協同組合間連携の推進・支援、②協同組合に関する政策提言・広報、③協同組合に関する教育・調査・研究、の3つの機能を果たします。

今後JCAは、さまざまな協同組合と手を携え、都道府県の協同組合連携組織と連携しながら、多様な協同組合が集うJCAの知見、情報、ネットワークを活かしながら、地域・都道府県・全国の各段階における協同組合間連携の拡大を支援していきます。JCAをどうぞよろしく願いいたします。

■ 都道府県協同組合連携組織等との連携した取り組み

さて、JCAとして特に重視しているのが、「地域と協同の研究センター」のような都道府県段階の協同組合連携組織（都道府県により「〇〇県協同組合連絡協議会」「提携推進協議会」「連絡会」「協議会」など名称はさまざまです。以下「県連携組織」とします）との連携です。

上述したように、JCAの目的は“持続可能な地域のよりよい暮らし・仕事づくり”への貢献です。全国機関が連携すること自体が目的ではなく、それぞれの地域で協同組合同士が一層連携を強化し、豊かで公正かつ持続可能な地域社会を創っていくことこそがもっとも大切であり、そうした地域での協同組合間の連携強化のために、JCAとして役割を発揮していきたいと考えています。

地域における協同組合間連携の強化のために、県連携組織や、県連携組織がない場合には各種協同組合の都道府県段階組織（以下、県連携組織と併せて「県連携組織等」とします）が、県段階における協同組合間連携を強めながら、情報交換や交流の場として地域ごとの連携を促進していくことが重要であり、JCAが県連携組織等との連携を強め、県連携組織等との間の交流や情報交換の場として機能していくことが必要だと考えています。

そのため、JCAでは2018年度、県連携組織等と連携した取り組みとして、県連携組織等の全国交流会議（7月11日に東京で開催予定）、県連携組織の実態調査、県連携組織等への訪問・意見交換などを実施していく予定です。

<JCAの会員構成>

第1号会員（社員）

全国農業協同組合中央会
 日本生活協同組合連合会
 全国漁業協同組合連合会（5月より予定）
 全国森林組合連合会
 日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会
 全国労働者共済生活協同組合連合会
 一般社団法人全国労働金庫協会
 全国農業協同組合連合会
 全国共済農業協同組合連合会
 農林中央金庫
 一般社団法人家の光協会
 株式会社日本農業新聞
 全国厚生農業協同組合連合会
 株式会社農協観光
 一般財団法人全国農林漁業団体共済会
 全国大学生生活協同組合連合会
 日本医療福祉生活協同組合連合会
 日本コープ共済生活協同組合連合会

第2号会員

都道府県農業協同組合中央会

第3号会員

JA、生協、漁協、森林組合、等各種協同組合および連合会等

以上

三重のプチフォーラム「三重県内の子ども食堂の活動報告」

【主催】地域と協同の研究センター三重地域懇談会 【後援】生活協同組合コープみえ

3月15日(木)、三重地域懇談会主催で三重のプチフォーラム「三重県内の子ども食堂の活動報告」が開催されました。伊勢市社会福祉協議会の小山さんに基調報告を行っていただき、三重地域懇談会でお話をお聞きしてきた、5つの子ども食堂の皆さんから活動報告いただきました。また、三重県で子ども食堂を開催している7団体の皆さんの参加もあり地域ごとの交流もすすみました。その一部を紹介します。(文責：事務局 大島)

基調報告

「居場所づくりと地域づくりの必要性」

伊勢市社会福祉協議会 地域福祉課 小山久和さん

伊勢市について紹介します。伊勢市は人口127,667人となり、高齢化率は30%を超えています。複雑になった問題に対して、昨年4月に生活サポートセンター『あゆみ』を立ち上げ、生活困窮者の自立相談支援事業を行っています。その中で、子どもに関する相談が非常に多くあります。私たちは、地域の居場所づくり、地域づくりが本来の仕事です。まずは桑名の「わくわくフレンズ」を見学し子ども食堂を開催しました。居場所づくりの推進を一緒にしてみんなでやってみませんかとすすめています。地域の拠点を線であつけないで、そこから面で地域をつくっていくという取り組みが市内ですればと思います。



小山久和さん

子ども食堂の報告

多世代交流のガーデンキッチン・たんぼぼ (桑名市)

みえ医療福祉生活協同組合理事 平手 マリ子さん

「ガーデンキッチン・たんぼぼ」を始めたきっかけは、みえ医療福祉生協で2015年度の方針で掲げた「たまり場・サロン」づくりです。「旧大山田生協クリニック」という施設があり、半年かけきれいにしました。そして、名古屋の北医療生協で行っている「わくわく子ども食堂」の杉崎さんに来ていただき、学習会をしました。そして2016年の6月にプレオープンしました。地域の高齢者にも参加していただき、多世代交流のガーデンキッチンになりました。

太陽の家 こども食堂 (桑名市)

NPO 法人太陽の家理事長 対馬 あさみさん

太陽の家は「きみを、あなたを、ひとりにしない」を合言葉に、生活の困窮とかしんどさを抱えた家族、家や学校に居場所のない子どもたちを対象に、物心両面から支援を行っている団体です。主な活動は、月一回子どもたちに無料で食事を提供する子ども食堂、さらに食とか日用品の支援が必要な家庭に個別で食料品をお届けするフードバンクの活動、シングルマザー支援の食事会・相談会の活動を行っていま

す。2016年の3月から子ども食堂を始め2周年です。新しい子ども食堂の立ち上げも支援しています。子ども食堂が少しでも増え、子どもが参加する場が広がればと思います。そして子ども食堂のネットワークができれば、地域の力となると思います。

鈴鹿子ども食堂 りんごの家 (鈴鹿市)

NPO 法人 shining 理事長 岡田 聖子さん

子どもが助けてと言える地域を目指して活動を始めました。経済的貧困に加え、心の貧困にも焦点を当て取り組んでいます。子どもたちには様々な問題がありますが、子どもが考えて行動してどうにかできる問題ではなく、地域の大人が関わって考えていかないと解決には向かいません。りんごの家の目的は、「①家でも学校でもない第3の居場所づくりとして、地域コミュニティを確立し、コミュニケーション能力のUPを図る。②地域のネットワークの構築。親同士のネットワークの構築。顔の見える関係づくり。③食べるということの大切さを伝える。自分で考える力を養う。」ことです。

けいわっこカレー食堂 (津市)

けいわっこカレー食堂プロジェクト実行委員会

事務局長 芳岡 哲親さん

学区の子ども食堂に関心のあるメンバーで実行委員会をつくり、桑名のわくわくフレンズと太陽の家を見学させていただきました。そこで、そこまで思っているなら「やりなよ」と言われ始めました。核家族化、地域のつながりの希薄化により、家庭や家族を取り巻く環境が大きく変わってきています。そんな中、子どもたちが「食」を通して異年齢の子たちと出会い、人と人がつながることの大切さを感じることで「地域の安心できる居場所」づくりを目指し「けいわっこカレー食堂」を開催しています。

伊勢こども食堂 キラキラ星 (伊勢市)

ボランティア団体「健昌会」代表 前田昌和さん

代読 久保さん

子ども達の「貧困」「孤食」「心の貧困」をなんとかしたい。孤独な子どもにも、楽しくおしゃべりしながら「おいしい」を、「うれしい」「楽しい」と感じて欲しい。そして、親子の絆、地域の絆を深めていきたい。ここに来れば「ひとりではないんだ」と気づいてもらえる子ども食堂にしていきたい。

第12回三河地域懇談会 豊橋生協会館へ寄らまいかん 開催

文責：伊藤小友美（事務局）

2018年3月24日（土）、コープあいちの豊橋生協会館にて、74名の参加で第12回三河地域懇談会を開催しました。「寄らまいかん」は奥三河の方言で「集まりましょう」という意味です。昨年に引き続き、住み慣れた地域で健康にくらすために学び、頭も体も動かしました。昼食は健康によい和食メニュー、呉汁ともち麦入りごはん、お漬物です。新城市の「やなマルシェ」からは、揚げたてのコロッケバーガーが届きました。地元、寺部食品と中央製乳の豆腐や牛乳の試食もしながら交流も深まりました。懐かしい歌をみんなで歌い、コグニサイズも楽しみました。

昨年オープンした小規模多機能施設の見学も好評でした。今年は、地域の生協組合員のグループ活動の発表コーナーもあり、参加が広がりました。三河地域懇談会でこの間フィールドワークした地域を地図に落とし込み、参加者のみなさんのおすすめスポットを教えてください。「三河再発見」のコーナーでは、歴史好きの人からは古城や古刹の情報、花好きの人からは桜の名所や公園の情報等が寄せられました。今後の活動に活かしていきます。



「健康寿命をのばす食生活」「エンディングノートのすすめ」のお話を聞いて

世話人 田所登代子

午前中に、熊崎稔子先生（管理栄養士・コープあいちの食と健康アドバイザー）の「健康寿命をのばす食生活」のお話をお聞きしました。印象的だったことをご紹介します。

平均寿命と健康寿命の差は、男性は約9年、女性は約12年。この差を無くすことがポイント。そのためにはバランス良く食べることが大切。そして、年齢に合わせた食べ方が必要です。70歳くらいまでは生活習慣病予防（メタボ・過栄養予防）を、65歳から75歳までは過栄養と低栄養の個別対応で元気に後期高齢者へ。70歳くらいからは介護予防（低栄養の予防）に注意すること。低栄養予防には1日3食きちんと食べること、特に細胞の素になるたんぱく質を摂ることが必要です。18歳から70歳以上まで1日の必要量は同じで男性60g、女性50gです。豚肉80gには16gのたんぱく質が含まれます（えっ！80gじゃないの・・・？）。卵1個には6g、牛乳180mlには6g含まれるということですから。それでは、何をどれくらい食べるとたんぱく質50gが摂れるのでしょうか。また、寝たきり原因第1の骨折予防にはカルシウムが大切です。カルシウムを多く含む乳製品やしらす干し、小松菜など積極的に食べましょう。豆腐も木綿、絹でカロリーやカルシウム量が違います（木綿豆腐100gは72kcal、カルシウム86mg、絹ごし豆腐100gは56kcal、カルシウム57mg）。何を求めるかで選ぶことが大事だとお聞きして、計算して食べないといけないのでボケていられないと思いました。

午後は、コープあいち葬祭課の布川さんから「エンディングノートのすすめ」を聞きました。終活という終わりに向かうイメージですが、これまでの人生を振り返ることで、自分にとって大切なものが見えてくるというお話に、とても共感しました。「書くことで気づくこと、発見することもある。今後の人生をイキイキと自分らしく過ごすために活用してください。もしもの時に、あなたや家族がとても助かります。感謝の気持ちで、日中に、鉛筆で書くこと。」とお聞きして、私も書いてみようと思いました。まずお気に入りの写真を一枚用意しなくては。私の粋な古い支度、第一幕開始です。

最後に、世話人会を代表して見山新一さんから以下のまとめがありました。

「こんにちは！お久しぶり！」「元気だった！」「会えてうれしいや〜！」そんな声があふれ、食べたり、学んだり、しゃべったり、からだを動かしたり、歌を歌ったり、とても楽しい一日をご一緒に過ごすことが出来た「寄らまいかん」でした。

三河地域懇談会世話人会では「私たちのくらしと介護～地域で粋な古い支度を」をテーマに活動を続け「地域で楽しくくらすために何が必要なのか、語り合いたいね。そんな場を作りたいね。」と話し合ってきました。参加されたみなさんにとって「地域で楽しくくらすためのヒントや気づき」が得られたか気になるところです。引き続き多くの人たちが集まり、その輪を広げていければと思います。活動を続ける中で会員を増やし、三河地域懇談会の世話人にもなっていただければ幸いです。

情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶生き生きと活躍している生協の女性マネージャー</p> <hr/> <p>NAVI 2018. 4 No. 793</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 生き生きと活躍している生協の女性マネージャー <コープのある風景> パルシステム東京 <今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見> 消費者信用生協 福山芳伸さん <想いをかたちにコープ商品> CO・OP野菜たっぷり和風ドレッシング <生協大好きママ コプ山さんの 教えて! CO・OP商品> CO・OP大豆ドライパック <ZOOM IN 生協の店舗づくり> コープみらい コープ府中寿町店 <私の本ナビ> わかやま市民生協 <うちの生協にはこんな人がいます> コープこうべ <日本全国 宅配現場におじゃまします!> みやぎ生協 仙台中央センター <いつでもどこでも 地域とくらしを支えます> コープぐんま <☆突撃☆あなたの町の組合員活動> 大阪いずみ市民生協 <明日のくらし ささえあうCO・OP共済> ララコープ <この人に聴きたい> 卓球選手 石川佳純さん <ほっとnavi> 東海コープ事業連合 生協ひろしま</p>	<p>2018 年 4 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶これからの生協産直を考える</p> <hr/> <p>生協運営資料 2018. 3 No. 300</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい! 連帯の強化と会員生協との一体運営にまい進する キーワードは組合員主権、チャレンジ、そして愛 コープ九州事業連合●代表理事 理事長 江藤淳一氏</p> <p>特集 これからの生協産直を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 産直事業を支える組織づくり・人づくりに取り組み、 将来のビジョンを生産者と共有する パルシステム連合会●商品開発本部 産直部 部長 江川 淳氏 事業と活動が一体となって地域の商品の価値を伝える コープこうべ●店舗商品部 水産 統括 北林孝元氏 地域活動推進部 組織運営推進 担当課長 長岡暁子氏 持続可能な経営と地域をつなぐ役割を果たす ふくいレインボーファームの挑戦 福井県民生協●執行役員 イノベーション推進室 統括部長兼 レインボーファーム (株) 代表取締役 中川政弘氏 レインボーファーム (株) 取締役 宮越博之氏 生産者と手を取り合って成長を支援してほしい 生協版GAPの意義と生かし方をあらためて問う 安心農業株式会社●代表 藤井淳生氏 <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第12回 人づくりを重点課題とした第11次中計 初年度は都心進出と業態変更にチャレンジ みやぎ生協●店舗運営部 部長 河野雪子氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第24回 専門部署の立ち上げから8年、 「同じ事故を繰り返さない」を合言葉に安全運転行動の定着を図る ユーコープ●宅配運営部 安全運転推進課 課長 森上敏明氏</p> <p>●短期連載 人づくりを考える 生協運動のいま、そして未来へ ～変わる運営、変わらぬ理念～ 日本生協連●顧問 浅田克己氏</p>	<p>2018 年 3 月 B5 版 88 頁 定価870 円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2018. 4 vol. 758</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から 地域農業振興計画の策定と農業所得増大の追求 — J A 石川かほく (石川県) の取り組み 大仲克俊 J A 農政トピック 地域と共に J A グループはどうあるべきか、について考える まとめ/日本農業新聞 きずな春秋 —協同のこころ— 童門冬二 私のオピニオン 井出英策 展望 J A の進むべき道 自己改革を实践し、組織基盤強化に取り組む 中家 徹 (J A 全中会長) 『八百森のエリー』の魅力に迫る (上) —担当編集者が語る 吉原伸一郎 海外だより [D. C. 通信] 連載 83 アメリカの農業政策を方向付ける農業法 吉澤龍一郎 トピック 日本協同組合連携機構 (J C A) が発足しました! 日本協同組合連携機構 (J C A)</p>	<p>2018 年 4 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶ディスカウントストア</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2018. 4 Vol. 507</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 現場に学ぶ 生源寺真一</p> <p>▶特集 ディスカウントストア ディスカウントストア論 —歴史と理論 矢作敏行教授に聞く— 矢作敏行 加速するディスカウントストアからの食品市場への攻勢 石橋忠子 生鮮食品により集客力強化を図る異業態 —積極的な出店でさらなる競争激化は必至— 森本守人 世界で急成長するディスカウントストア —アルディとリドル— 川端庸子 コラム 1 欧州生協のディスカウントストア対応の状況 佐藤孝一 コラム 2 ディスカウントストアとプライベートブランド 鈴木 岳</p> <p>■海外情報 第 6 回 EME S (社会的企業に関する国際学会) 参加報告 山崎由希子</p> <p>■時々再録 START FAST, FAIL FAST —日本にイノベーション文化は育つか— 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2018・2) 田中 陽・三浦一浩</p> <p>■新刊紹介 丸山茂樹著 『共生と共歓の世界を創る—グローバルな社会的連帯経済をめざして』 鈴木 岳</p> <p>● 公開研究会 4/27<東京会場> ● 公開研究会 5/19<京都会場> ● 『生活協同組合研究』 総目次</p>	<p>2018 年 4 月 60 頁 B5 判</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
<p>▶多様な福祉レジームと 海外人材</p> <hr/> <p>文化連情報 2018. 4 No. 481</p> <p>日本文化厚生農業協同組合連合会</p>	<p>外資を呼び込む戦略に動員される薬価制度 東 公敏</p> <p>院長リレーインタビュー (300) 小池健一</p> <p>50 周年を経て救急を軸にした新病院竣工 二木 立</p> <p>二木教授の医療時評 (158) 二木 立</p> <p>私の医療経済・政策学研究の軌跡 —日本福祉大学大学院最終講義より 厚生連病院における質の高い臨床研究を目指して 医学系指針や臨床研究法への理解を深める 第 4 回厚生連病院臨床研究研修会開催 酒井真弓</p> <p>新連載 多様な福祉レジームと海外人材 (1) 福祉レジーム論とは 安里和晃</p> <p>韓国農業の実相—日本との比較を通じて (20) 統計データから見た韓牛生産の実態 品川 優</p> <p>臨床倫理メディエーション (22) 現在の医療をめぐる臨床倫理 (2) 中西淑美</p> <p>平成 29 年度厚生連院内感染予防対策研修会【中級】に参加して 他の厚生連病院との違いを知ることができた 江藤和人</p> <p>教科書では学べないことが学べる研修会 酒井紫乃</p> <p>楽しく学べ、自信につながった研修会 大坪秋代</p> <p>地域医療を担う佐久総合病院における再生可能エネルギーの活用 大平佳男</p> <p>地域で力を防ぐ 常総ほぱたん食堂</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (147) 成果 (出来映え) をどう証明するのか 岡田玲一郎</p> <p>野の風●出会い 橋本美由紀</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (107) 自立支援型デイサービス「楽」(大分市) 松岡洋子</p> <p>熱帯の自然誌 (25) 沿岸漁業 安間繁樹</p> <p>イギリスの社会的企業 Sustainable Enterprise Strategies 小磯 明</p> <p>フランスの訪問看護 (3) 活動と課題 小磯 明</p> <p>◆第 44 回厚生連医薬品対策会議開催のお知らせ ◆第 14 回厚生連医療機器・保守問題対策会議開催のお知らせ ◆平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ</p> <p>□書評 医療経済・政策学の研究／小磯明</p> <p>▶線路は続く (121) 春駆ける小田急ロマンスカー／西出健史</p> <p>▶最近見た映画 ウイスキーと二人の花嫁／菅原育子</p>	<p>2018 年 4 月 B5 判 88 頁 文化連情報 編集部 03-3370-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

第16回

傍聴席を満席に！！ 原発事故損害賠償請求訴訟 愛知岐阜

いのち。暮らし。ふつうの暮らし。

日時：2018年5月11日（金）13:00集合

※名古屋地裁西玄関付近集合（家庭裁判所脇無料駐車場が比較的空いています）

私たち（原告団）は子どもの命を守るため・自らの命を守るため・強制的に、それぞれの置かれた状況やそれぞれの思いで避難してきました。

原発事故が起きてから8年目。原発事故の責任がどこにあり、誰が償わなければいけないのか、いまだ結論は出ていません。私たち避難者は避難する自由も幸せに生きる権利もあるはずで

そんな原告を、どうか傍聴席から支えてください。

当日のスケジュール

1. 裁判傍聴 13:30～名古屋地裁【1号または2号法廷】

被告側（国）の避難指示に関する反論書面に対して、原告弁護団が意見陳述をする予定です。

2. 報告会 裁判終了次第～15:00（会場はFacebookで告知）

原告（避難者）からの原発事故に関する思いをお話しする予定です。

愛知岐阜弁護団からの裁判内容の報告

【お問い合わせ】：福島県原発事故損害賠償請求訴訟愛知弁護団 TEL：052-231-4311（澤弁護士）

Facebook <https://www.facebook.com/hinan.aichi/>

書籍案内



「教科書にみる 世界の性教育」

編著：橋本 紀子, 池谷 壽夫, 田代 美江子 定価：2,160円（税込）

発行日：2018/2/14 ページ数：184ページ 出版社：かがわ出版

内容紹介

グローバル化し、ネット化する現代 多様に進化する世界の教科書を紹介
親も先生も知らないところで世界とつながるネット時代。

自らの心と身体を守り、豊かな人間関係を築くのに必要なのは最新の科学的
知見と社会の歴史をふまえ多様な性を尊重し、よりよい行動を選択するスキル
や自分らしい価値観を育てる、対話的でアクティブな教育です。

性教育先進国の教科書はどんな内容でしょう？

日本の教科書も、その変遷をふまえて紹介します。

かがわ出版ホームページから

地域と協同の研究センター 5月の活動予定

5月1日（火）協同の未来塾企画委員会 14～（れあろ③）

5月9日（水）「市民が協働を学びあう講座」企画委員会

5月10日（木）名市大学寄付講義④ 研究フォーラム職員の仕事

5月14日（月）常任理事会⑩

5月17日（木）名市大寄付講義⑤

5月21日（月）愛知の協同組合間協同相談会

5月22日（火）共同購入事業マスターコース企画委員会

5月23日（水）三河地域懇談会世話人会

5月24日（木）名市大寄付講義⑥

5月26日（土）第18回通常総会、総会記念シンポジウム※

5月30日（水）三重地域懇談会世話人会

5月31日（木）名市大寄付講義⑦

※総会記念シンポジウムは別添「開催のご案内」をご覧ください